

4月22日の米国株式市場の下落について 大幅かつ急速な利上げへの懸念高まる

2022年4月25日

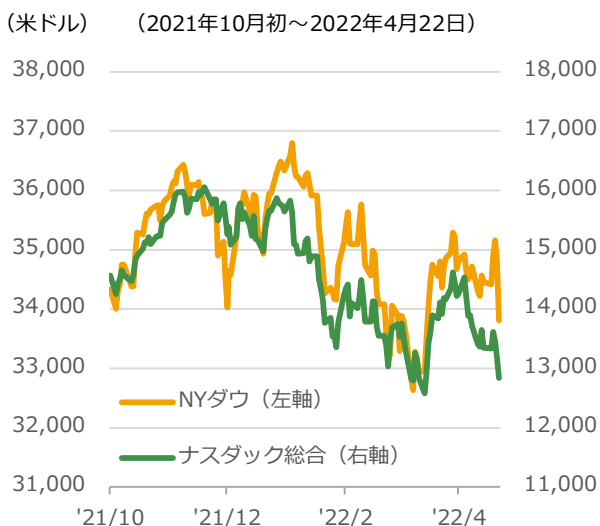
0.5%ポイント以上で複数回の利上げへの警戒感が広がる

4月22日（現地、以下同様）の米国株式市場では、NYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数がいずれも2%台後半の下落となりました。主な下落要因は、FRB（米国連邦準備制度理事会）による大幅かつ急速な利上げへの警戒感と、一部の企業の低調な決算です。

パウエルFRB議長は21日に開催されたIMF（国際通貨基金）の会合で、利上げについてもう少し迅速に動くことが適切であり、5月3-4日のFOMC（米国連邦公開市場委員会）ではFF（フェデラル・ファンド）金利の0.5%ポイントの引き上げが検討されるといった趣旨の発言をしました。市場でも5月のFOMCで0.5%ポイントの利上げが実施されるとの見方がコンセンサスにはなっていましたが、議長の発言であることや、また別のところで一部のFRB高官が0.75%ポイントの利上げについて言及していたこともあり、0.5%ポイント以上の連続利上げといった大幅かつ急速な利上げへの警戒感が広がりました。企業決算に関しては、通信大手のベライゾンがインフレや競争激化を理由に、医療サービスのHCAヘルスケアが人件費高騰などを理由に、それぞれ業績見通しを下方修正したことなどが市場心理を悪化させました。

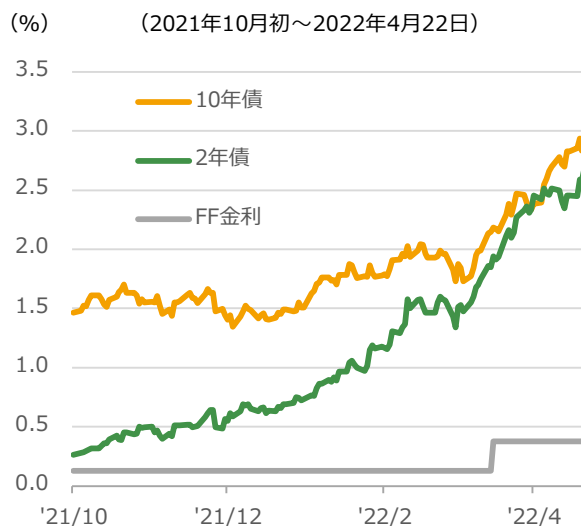
今後の米国株式市場ですが、目先は5月3-4日のFOMCを見守る状況となりそうです。そこで今後の金融政策の方向性について情報が得られれば、市場の警戒感が幾分和らぐ可能性はあるでしょう。その後は、ピークアウト説も出始めつつある物価の動向に注目する展開が続きそうです。

米国株価指数



(出所) ブルームバーグ

米国債利回りとFF金利



※FF金利は誘導目標レンジの中心値

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management